

エマージング・プラス・成長戦略コース

追加型投信／海外／資産複合

交付運用報告書

第55期(決算日2016年3月10日)

第56期(決算日2016年4月11日)

第57期(決算日2016年5月10日)

第58期(決算日2016年6月10日)

第59期(決算日2016年7月11日)

第60期(決算日2016年8月10日)

作成対象期間(2016年2月11日～2016年8月10日)

第60期末(2016年8月10日)	
基準価額	4,714円
純資産総額	17,416百万円
第55期～第60期	
騰落率	15.3%
分配金(税込み)合計	400円

(注) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「エマージング・プラス・成長戦略コース」は、2016年8月10日に第60期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、新興国の債券、株式(預託証券を含みます。)および不動産投資信託証券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なってまいりました。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号

<http://www.nikkoam.com/>

当運用報告書に関するお問い合わせ先

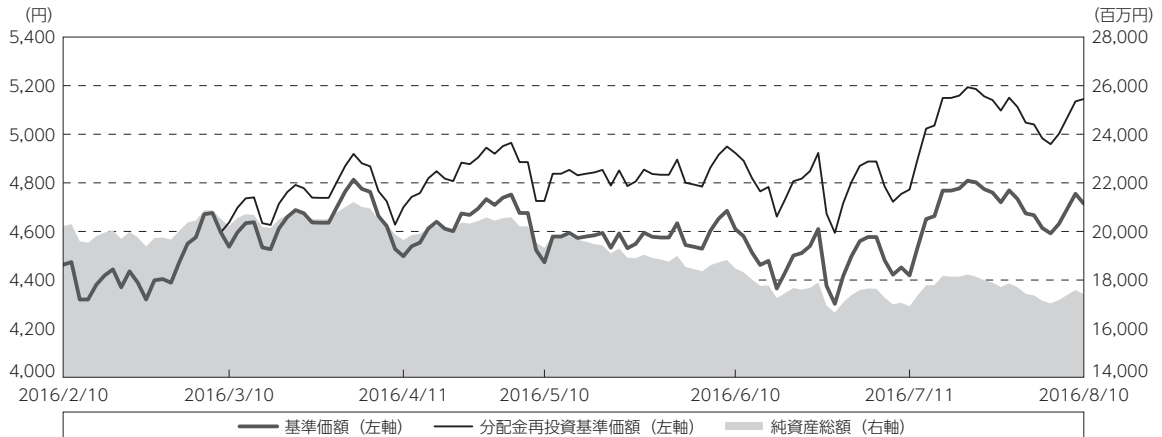
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

作成期間中の基準価額等の推移

(2016年2月11日～2016年8月10日)



第55期首：4,463円

第60期末：4,714円 (既払分配金(税込み)：400円)

騰落率：15.3% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2016年2月10日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、新興国のハイ・イールド社債、高配当株式、不動産に実質的に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行なっております。また、主要通貨部分について、主要通貨売り、成長通貨買いの為替取引を行なっております。成長通貨については、原則として新興国通貨の中から複数通貨を適宜選定しています。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・原油市場の底入れ、アメリカドル高の一服、過度な中国不安の後退などを受けて、新興国債券が上昇したこと。
- ・低金利環境下で利回りニーズの高まりから、新興国市場に投資資金が流入したこと。

<値下がり要因>

- ・エネルギー・資源企業向け投融資で減損損失を計上したこと。

1万口当たりの費用明細

(2016年2月11日～2016年8月10日)

項 目	第55期～第60期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	19 円	0.408 %	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(6)	(0.134)	委託した資金の運用の対価
(販 売 会 社)	(12)	(0.258)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	0	0.010	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(0)	(0.003)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印 刷 費 用)	(0)	(0.007)	印刷費用は、法定開示資料の印刷に係る費用
(そ の 他)	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理等に要するその他の諸費用
合 計	19	0.418	
作成期間の平均基準価額は、4,621円です。			

(注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

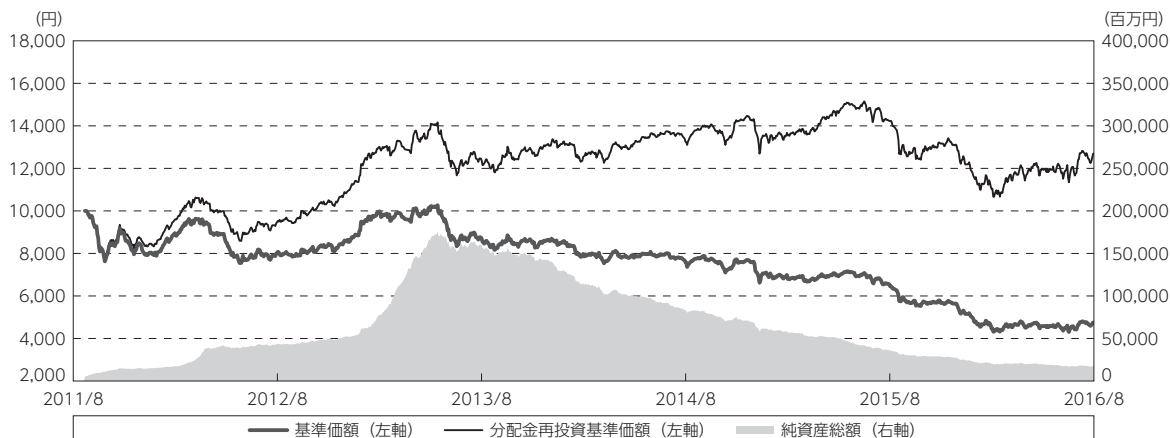
(注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2011年8月10日～2016年8月10日)



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
 (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なり、また、ファンドの購入価額により課税条件も異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。
 (注) 当ファンドの設定日は2011年8月31日です。

	2011年8月31日 設定日	2012年8月10日 決算日	2013年8月12日 決算日	2014年8月11日 決算日	2015年8月10日 決算日	2016年8月10日 決算日
基準価額 (円)	10,000	7,981	8,461	7,363	6,453	4,714
期間分配金合計(税込み) (円)	—	1,540	1,680	1,680	1,520	1,000
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	△ 4.2	27.8	7.1	8.6	△ 10.7
純資産総額 (百万円)	5,463	43,298	154,682	80,172	35,721	17,416

- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
 (注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
 (注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
 ただし、設定日の基準価額は設定当初の金額、純資産総額は設定当初の元本額を表示しており、2012年8月10日の騰落率は設定当初との比較です。
 (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2016年2月11日～2016年8月10日)

(新興国社債市況)

期間の初めは、為替政策や経済成長を巡る中国懸念の高まり、原油をはじめとするコモディティ市場の調整を材料に、新興国社債は軟調な展開となりました。2016年2月中旬以降は、中国を巡る過度な悲観論の後退、コモディティ市場の底入れに加えて、日本や欧米の中央銀行がよりハト派的・緩和的な金融政策に転換したことが好感され、新興国市場は下げ止まりました。特に米国の追加利上げが後ずれするとの見方が強まり、新興国通貨に対するアメリカドル高基調が反転したことがプラス材料視され、3月から4月にかけて、新興国社債は力強い上昇を記録しました。6月には英国の国民投票でEU（欧州連合）離脱賛成票が多数を占めたことが世界的に注目を集めました。新興国市場へのマイナスの影響は短期的・限定的にとどまり、期間末にかけて新興国社債は底堅く推移しました。

(新興国株式市況)

新興国株式は、新興国資産全般が反転・上昇する中で上昇しました。コモディティ市場の安定化や新興国通貨の上昇が追い風となりました。

新興国の中でもブラジルが際立った上昇を記録しました。市場関係者に不人気であった同国大統領に対する弾劾手続きが進捗し暫定政権が誕生したこと、新内閣の経済チームにより財政・構造改革が前進するとの期待が高まったこと、および経常収支の改善やインフレ率の低下に見られるようにファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）の改善が鮮明となりつつあることが材料視されました。市場では、インフレ率の低下や成長軌道回復に向け、必要な改革を押し進める能力と意思を持つ政権が誕生したとの期待が高まりました。ブラジル以外では韓国や中国も良好なパフォーマンスを残しました。

(新興国不動産投資信託市況)

新興国不動産株式は、他のセクターの新興国株式と同様、上昇しました。新興国不動産社債では、中国不動産銘柄のパフォーマンスが強弱まちまちであった一方、中東不動産銘柄は原油価格の反発が大きな支援材料となり、堅調に推移しました。

(国内短期金利市況)

無担保コール翌日物金利は、期間の初めは0.07%近辺で始まったものの、2016年2月後半から4月前半にかけては、日銀によるマイナス金利の導入が開始されたことを受けて低下し、0%近辺の推移となりました。4月後半以降は、マイナス金利での取引が本格化したことからマイナス圏での推移となり、-0.05%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券3ヵ月物金利は、期間の初めの-0.16%から、日銀による国債買入れの継続や追加の金融緩和観測などを受けて金利低下が進み、-0.23%近辺で期間末を迎えました。

当ファンドのポートフォリオ

(2016年2月11日～2016年8月10日)

(当ファンド)

当ファンドでは、収益性を追求するため「アッシュモア・エマージング・マーケット・ハイイールドプラス・ファンド・リミテッド アクティブ・エマージング・カレンシースクラス」円建投資証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(アッシュモア・エマージング・マーケット・ハイイールドプラス・ファンド・リミテッド アクティブ・エマージング・カレンシースクラス)

新興国の債券、株式、不動産に投資を行ない、インカム収益を確保しながらトータルリターンを最大化をめざしました。

ポートフォリオにおける各資産の組入比率は、市況見通しなどを踏まえた資産配分の変更により変動しましたが、概ね債券を5割～7割、株式を1割～3割、不動産を0～1割、その他（キャッシュ等）を0～2割としました。株式では大型銘柄を中心に投資し、組入比率を機動的に変更しました。不動産では、新興国不動産社債を中心に、組入比率を徐々に引き下げました。2016年3月以降の上昇局面で一定のキャッシュを保持したことにより、時価上昇による利益の蓄積は一部抑制されました。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

(2016年2月11日～2016年8月10日)

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定していません。

分配金

(2016年2月11日～2016年8月10日)

分配金は、運用実績や市況動向などを勘案し、以下のとおりといたしました。なお、分配金に充当しなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項 目	第55期	第56期	第57期	第58期	第59期	第60期
	2016年2月11日～ 2016年3月10日	2016年3月11日～ 2016年4月11日	2016年4月12日～ 2016年5月10日	2016年5月11日～ 2016年6月10日	2016年6月11日～ 2016年7月11日	2016年7月12日～ 2016年8月10日
当期分配金	100	100	50	50	50	50
(対基準価額比率)	2.157%	2.175%	1.105%	1.073%	1.119%	1.050%
当期の収益	97	95	46	48	46	48
当期の収益以外	2	4	3	1	3	1
翌期繰越分配対象額	1,444	1,439	1,435	1,434	1,430	1,429

(注) 対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、「アッシュモア・エマージング・マーケット・ハイイールドプラス・ファンド・リミテッド アクティブ・エマージング・カレンシースクラス」円建投資証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(アッシュモア・エマージング・マーケット・ハイイールドプラス・ファンド・リミテッド アクティブ・エマージング・カレンシースクラス)

新興国資産は、バリュエーションおよびテクニカルの両面で投資妙味が高いと評価しています。

先進国経済はまだら模様である一方、新興国経済は概して堅調に成長を遂げています。新興国の間でも大きな差が見られ、ブラジルのように景気の底入れを探っている国もあれば、インドのように順調に成長を遂げている国もあります。世界のマクロ経済リスクはやや和らいでいます。その背景には、①FRB（米国連邦準備制度理事会）の利上げサイクルが当初の想定よりも遅いペースになる見通しであること、②原油などのコモディティ価格が安定化しつつあること、③中国人民銀行と中国政府の両方が介入姿勢を強めており、中国経済のハードランディングのリスクが後退していることが挙げられます。機関投資家の新興国市場への投資比率が依然として抑制的であるとみられるなど、テクニカル面もポジティブであると思われます。

上記見通しのもと、新興国の債券、株式、不動産に投資を行ない、インカム収益を確保しながらトータルリターンの最大化をめざします。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主要投資対象は、原則として、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

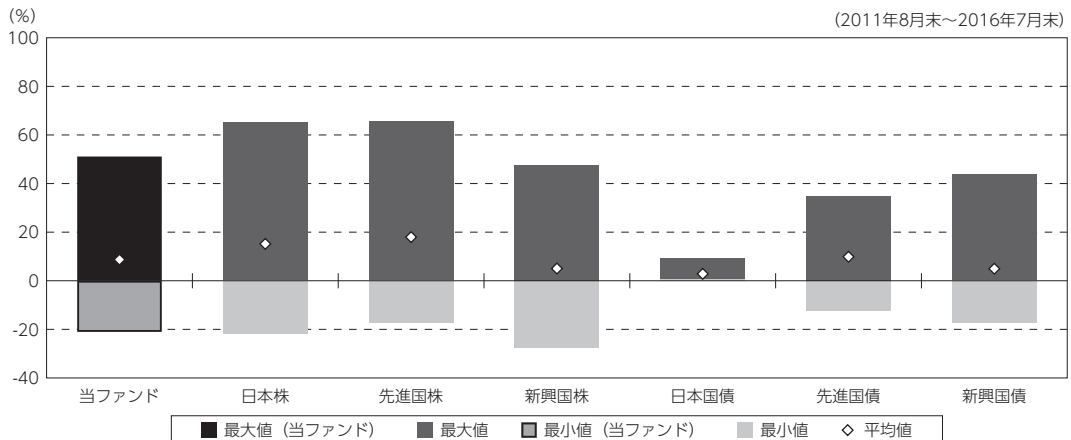
2016年2月11日から2016年8月10日までの期間に実施いたしました約款変更はございません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／資産複合
信託期間	2011年8月31日から2021年8月10日までです。
運用方針	主として、新興国の様々な資産を主要投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主要投資対象	「アッシュモア・エマージング・マーケット・ハイールドプラス・ファンド・リミテッドアクティブ・エマージング・カレンシーズクラス」投資証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運用方法	主として、新興国の債券、株式（預託証券を含みます。）および不動産投資信託証券を主要投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、安定した収益の確保と信託財産の成長をめざして運用を行ないます。各資産のうち、主要通貨（米ドルなどG10の国の通貨）部分について、主要通貨売り／新興国通貨買いの為替取引を行ないます。
分配方針	第1計算期は収益分配を行ないません。第2計算期以降、毎決算時、原則として安定した分配を継続的に行なうことをめざします。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	51.1	65.0	65.7	47.4	9.3	34.9	43.7
最小値	△ 21.0	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	0.4	△ 12.3	△ 17.4
平均値	8.7	15.2	18.0	5.0	2.8	9.9	4.9

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2011年8月から2016年7月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。なお、当ファンドは2012年8月以降の年間騰落率を用いております。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株：東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株：MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース)

新興国株：MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債：NOMURA-BPI 国債

先進国債：シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債：JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、東京証券取引所に帰属します。●MSCI-KOKUSAI インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●MSCI エマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc. が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。●NOMURA-BPI 国債は、野村証券株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村証券株式会社に帰属します。なお、野村証券株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いられる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●シティ世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、Citigroup Index LLC が開発した、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLC に帰属します。●JP モルガン GBI-EM グローバル・ディバーシファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLC に帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2016年8月10日現在)

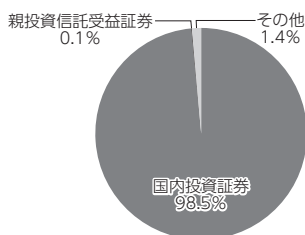
○組入上位ファンド

銘柄名	第60期末
	%
アッシュロフ・エマージング・マーケット・ハイールドプラス・ファンド・リミテッドアクティブ・エマージング・カレンシーズクラス	98.5
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

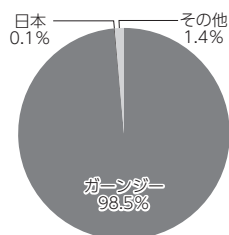
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

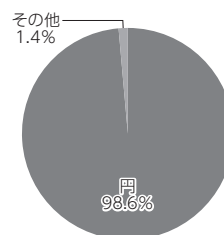
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資証券には外国籍（邦貨建）の投資証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

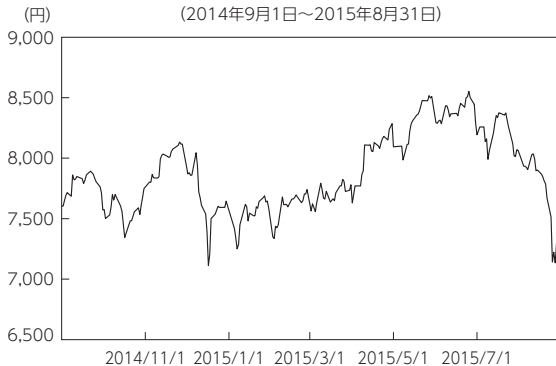
項目	第55期末	第56期末	第57期末	第58期末	第59期末	第60期末
	2016年3月10日	2016年4月11日	2016年5月10日	2016年6月10日	2016年7月11日	2016年8月10日
純資産総額	20,225,040,267円	19,648,776,887円	19,321,972,213円	18,477,986,694円	16,919,784,909円	17,416,635,695円
受益権総口数	44,580,844,074口	43,678,846,700口	43,198,988,110口	40,084,387,335口	38,291,100,451口	36,944,926,618口
1万口当たり基準価額	4,537円	4,498円	4,473円	4,610円	4,419円	4,714円

(注) 当作成期間（第55期～第60期）中における追加設定元本額は875,968,313円、同解約元本額は9,227,934,165円です。

組入上位ファンドの概要

アッシュモア・エマージング・マーケット・ハイイールドプラス・ファンド・リミテッド アクティブ・エマージング・カレンシーズクラス

【基準価額の推移】



【1万口当たりの費用明細】

(2014年9月1日～2015年8月31日)
 当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

【組入上位10銘柄】

(2015年8月31日現在)

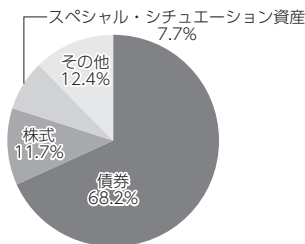
銘柄名	業種 / 種別等	通貨	国 (地域)	比率
1 Rubicon Offshore International Holding Ltd 10% PIK 12/06/2019	スペシャル・シチューエーション資産	アメリカドル	シンガポール	3.4%
2 Dubai World TLB 2% + 1.75% PIK 30/09/2022	スペシャル・シチューエーション資産	アメリカドル	アラブ首長国連邦	2.1%
3 Privatbank CJSC via UK SPV Credit Finance PLC 9.375% 23/09/2015	債券	アメリカドル	ウクライナ	1.7%
4 China Construction Bank Corp	株式	香港ドル	中国	1.6%
5 Ashmore SICAV Indian Small-Cap Equity Fund	上場ファンド	アメリカドル	インド	1.6%
6 Far East Energy Bermuda Ltd 13% PIK 15/01/2016	スペシャル・シチューエーション資産	アメリカドル	中国	1.3%
7 CEMEX Finance LLC 9.375% 12/10/2022	債券	アメリカドル	メキシコ	1.2%
8 Dubai Holding Commercial Operations MTN Ltd 6% 01/02/2017	債券	イギリスポンド	アラブ首長国連邦	1.2%
9 Vimpel Communications Via VIP Finance Ireland Ltd 0JSC 7.748% 02/02/2021	債券	アメリカドル	ロシア	1.2%
10 Russian Standard Bank Via Russian Standard Finance SA 7.73% Step Cpn 16/12/2015	債券	アメリカドル	ロシア	1.2%
組入銘柄数	132銘柄			

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

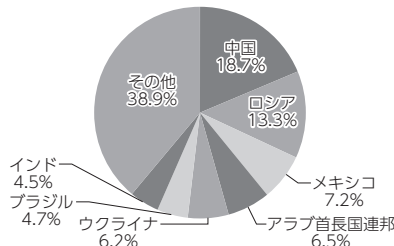
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書 (全体版) に記載しております。

(注) 国 (地域) につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

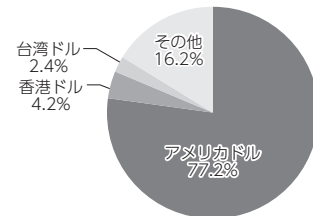
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



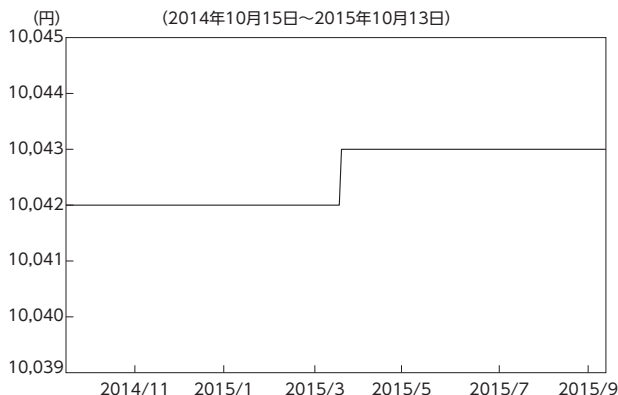
(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2014年10月15日～2015年10月13日)



【1万円当たりの費用明細】

(2014年10月15日～2015年10月13日)

該当事項はございません。

【組入上位10銘柄】

(2015年10月13日現在)

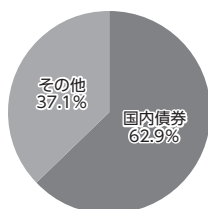
	銘柄名	業種／種別等	通貨	国 (地域)	比率 %
1	第550回国庫短期証券	国債証券	円	日本	48.4
2	第548回国庫短期証券	国債証券	円	日本	12.9
3	第487回国庫短期証券	国債証券	円	日本	1.6
4	—	—	—	—	—
5	—	—	—	—	—
6	—	—	—	—	—
7	—	—	—	—	—
8	—	—	—	—	—
9	—	—	—	—	—
10	—	—	—	—	—
組入銘柄数			3銘柄		

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。

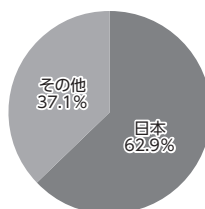
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

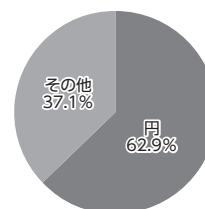
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書（全体版）をご参照ください。